

河畔の旅館 再生へ知恵を

八代市坂本町 学生と意見交わす



旅館の周辺を歩く学生や地域住民ら
＝八代市

八代市坂本町の「鶴之湯旅館」は、熊本高専八代キャンパスと県立大の建築関係の学生や住民らと共に活性化策を探るプロジェクトを発足させた。球磨川を見下ろす木造3階建ての建物で、町唯一の宿泊施設。学生らのアイデアを生かし、新たに露天風呂を設けるこ

などを検討する。

同旅館は1954年創業。県営荒瀬ダムのダム湖遊覧船客などでにぎわったが、2002年にダム撤去が決まると次第に客足が遠のき、休業を決めた。約10年間の休業を経て、経営する土山大典さん(37)は「このまま旅館がなくなるのは忍びない」と16年に営業を再開した。

18、19日は同旅館でオリエンテーションがあり、約20人が初顔合わせ。旅館内や周辺を歩き、新設する露天風呂や旅館の魅力について意見を交わした。土山さんは「若い世代の斬新な意見がたくさん出た。アイデアは必ず実現させたい」と話した。(中村悠)